

令和6(2024)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月 1日
氏名	有山 裕美子
国文学科	講師
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
学習指導と学校図書館	子ども	2
学校経営と学校図書館	子ども	2
情報メディアの活用	子ども	2
読書と豊かな人間性	子ども	2
基礎力プログラムⅠ	国文	1
基礎力プログラムⅢ	国文	2
基礎力プログラムⅣ	国文	1
図書館情報技術論	国文	1
図書館情報資源論	国文	1

②担任制度

担任 (1年生)	有	担任 (2年生)	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	副委員長
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	委員
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャセンター運営委員会	委員
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	委員長
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	担当
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	(有) ・ 無
--------	---------

助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費助成事業
研究種目	基盤研究 (B)
期間	令和 5 年 4 月～令和 9 年 3 月
助成金額 (期間中合計)	14,430 千円
研究課題	学校教育とデジタルアーカイブを結ぶ学習内容 LOD を用いた架け橋モデルの設計
備考 (分担者等)	分担者

外部資金獲得	有・無
助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費助成事業
研究種目	基盤研究 (B)
期間	平成 6 年 4 月～令和 10 年 3 月
助成金額 (期間中合計)	18,460 千円
研究課題	校長含む教職員の著作権知識や経験値等の実態分析に基づく個別最適な著作権研修の構築
備考 (分担者等)	分担者

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 魅力ある授業と学生支援を実施し、成果を学内外に発信する。
個人の教育理念・目標	本学の教育理念及び、建学の精神に基づき、「教育者を育てる教育者」として日々学び、自己研鑽につとめるとともに、学生ひとり一人の課題や学びに寄りそう、きめ細やかな指導をおこないます。 また、学生の理解が深まるような授業の工夫、改善につとめ、社会に出た時に役に立つような実践的なカリキュラムの実践を目指す中で、授業内容を工夫し、魅力ある授業を实践し、それらの成果を外部に向けて発信していくよう努力していきます。学内での情報発信はもちろん、オープンキャンパスや SNS、あるいは学外での研究発表や論文投稿等でも本学の実践の様子等を積極的に発信していきます。

3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	<p>昨年度と同様、「教育者を育てる教育者」としての理念に立ち、講義内でも、より実践に即した内容をとりあげるように努めました。また、自分自身の教員や司書としての経験はもちろん、さまざまな具体例を取り上げ、学生が社会に出た時に役に立つような、演習等を取り入れ、主体的に授業に参加できるように促しました。</p> <p>具体的な方法としてはあ、学生一人一人の課題に対する習熟度を測るために、講義毎のリアクションペーパーの作成や、講義途中の中間レポートを課し、随時フィードバックや授業内発表を取り入れ、理解度や講義への主体性を見るようにしました。より協同的な学びへと向かえるように、グループディスカッションや、お互いへのフィードバック等にも重点を置き、他者の意見も尊重しながら学びを深めることができるように授業を組み立てていくようにしました。また、可能な範囲で Google クラズルームや動画作成など、ICT を活用した授業を行い、学生の ICT 活用を促しました。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>スチューデントアワーを使ってバトミントンなどスポーツを行い、学生との親交を深めたり、担任の学生を中心に可能な限り学生との接点を持ったりするように心がけました。また、司書を目指す学生も含め、できる限り進路に結びつくような支援を行うようにしました。</p> <p>学外での研究発表や論文投稿等でも本学の実践の様子等を積極的に発信するよう心がけました。</p>

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p>ほとんどの授業でテキストを指定したので、予習・復習の点も考慮しながら、テキストに沿った形で毎回の授業を組み立てました。授業毎にスライド等を用意し、学生の理解が深まるように工夫しました。また、昨年度に引き続き授業毎のリアクションペーパー提出を課したのですが、毎回到振り返りをしっかりと行う学生が多かった印象です。まとめの形としてリアクションペーパーの提出を課すことで、より知識や技能の習得、定着が図れるのではないかと感じています。来年度も継続したいと思います。</p> <p>講義内での発表やレポートなどは、主体的かつ意欲的に行われていて、発表方法はもちろんその創造性も高く評価できるものになっています。来年度も可能な限りアクティブラーニングを取り入れていきたいと思っています。</p> <p>ICT活用の場面も、それぞれ工夫して使いこなしている様子が見えます。AIとの向き合い方など、新しい視点についても今後は共有していきたいと考えています。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>個人的なことを相談してくれる学生もいて、話しかけやすい状況にはあったのではないかと思います。就職相談をしてくれる学生も増え、面接練習等も随時行うようにしました。その反面、学修に困難を抱える学生へのサポートが思うようにできなかったという反省があります。</p>

5. 目標（今後どうするか）

授業	<p>今年度に引き続き、より実践的な講義の中で社会人としての力をつけていけるように促すとともに、演習や発表、グループワーク等多数取り入れながら主体的・協同的な学びを支援していきたいと思っています。また、学生一人一人の理解度、習熟度にも配慮しながら、きめ細やかな指導を目指します。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>来年度以降も、スチューデントアワーのような時間を活用して、より細かな学生支援を行ってきたいと思っています。また、就職活動に向けても随時支援を行っていきます。</p>

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

教育	<p>ひとり一人の学生を尊重し、それぞれが抱える課題等に適切に対処することを常に心がけました。授業においては、受講の様子やリアクションペーパーなどでの理解度等を意識しながら進め、また就職相談等においては、真摯に向き合うとともに、社会に出た時に困らないように丁寧に対応することが重要です。多感な時期の学生への適切なコミュニケーションの取り方は難しい面もありますが、まずはひとり一人の声に耳を傾け、相談役として適切な対応ができるよう、教育者の一人として、今後も心がけていきたいと思っています。</p>
全学的な方針 「教職員としての 自覚」に関する目 標の達成	<p>学生の規範になれるよう、常に学ぶことを心掛け、進んで研究会や学会に参加し、研究するとともに論文等の執筆も可能な限り行うようにし、自身の研究テーマや活動を見える形にすることを心がけました。</p> <p>また、都道府県等の読書推進計画策定に積極的にかかわるとともに、特に滋賀県内の関連機関（滋賀県教育委員会や県内図書館、地域の団体など）と関係性をつくるようにしました。さらに、プラットフォームを活用した講座を2件実施、地域の施設等でおはなし会を行うなど、外部に向けても積極的に発信をしました。</p>

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	シラバス
②令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況
③令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表
④令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿
⑤令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	組織図

以上